

中央臨床検査部

呼吸機能検査とは



呼吸機能検査で何がわかるの？

肺の機能を調べる検査です。呼吸時の呼気量と吸気量を測定し、肺の弾力性・胸部拡張性・気道閉塞の有無などを調べます。

呼吸機能検査は何のためにするのか？

喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺疾患をはじめとする呼吸器の病気が疑われる時やその状態をみる時に行う検査です。

また、全身麻酔で手術の予定がある時にも行われます。肺の機能が低下している時は、麻酔法や手術の内容を変更する場合があります。

当院センターではVC（肺活量）、FVC（努力性肺活量）、MVV（最大換気量）を実施しています。



検査の方法

最大限の努力で息を吐いたり吸ったりする検査です。

スパイロメータという機器を使用し、鼻から空気がもれないようにクリップでつまみ、マウスピースという筒をくわえて測定します。

検査技師の指示に従って呼吸していただきます。

検査時間は10分～15分程度です。

例) VC（肺活量）：普段と同じ呼吸を数回行い、一度限界まで息を吐き切り、その後限界まで吸い、もう一度限界まで吐き切ったら「肺活量」の測定ができます。



※臨床検査部からの最新情報※

H29年8月より、精密の終夜睡眠ポリグラフィック検査（PSG）を開始しています。

PSG検査とは、夜間睡眠中の身体の状態を、装着した複数のセンサーを通して睡眠の深さや質、睡眠中のイビキや身体の動き、中途覚醒の有無等を測定する検査です。睡眠時の無呼吸状態の有無の検出に有用です。



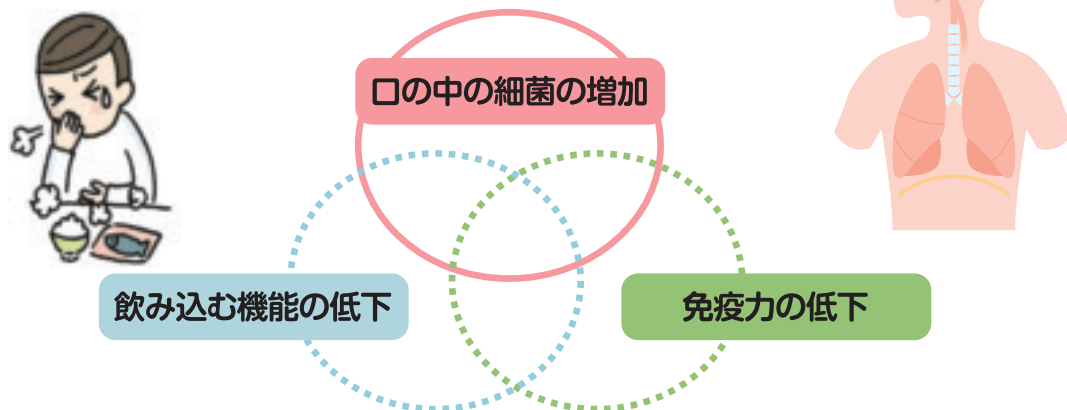
☆ご不明な点は中央臨床検査部までお問合せお願いいたします。☆

口腔ケアチーム

誤嚥性肺炎とは

物を飲み込む働きが障害され、口から食道へ入るべき唾液や食べ物などと一緒に細菌を気道に誤って吸引することにより発症します。

誤嚥性肺炎発症のリスク因子



誤嚥性肺炎発症の主なリスクには、①口の中の細菌の増加、②飲み込む機能の低下、③免疫力の低下などが挙げられ、これら因子が重なることで発症率が高くなります。そのため、口の中の細菌の数を減らすことで、発症を予防する可能性があると言われています。

口の中の細菌除去

①歯や義歯の周りの細菌

歯垢や歯石となって歯や義歯の周りには強固に細菌が付着しています。歯垢は歯ブラシなどで丁寧に除去しましょう。

また、歯石を除去するには歯科医院での機械による清掃が必要です。



②舌の表面の細菌

舌苔となって舌の表面にも細菌が存在します。

やわらかい歯ブラシや舌ブラシなどでやさしく除去しましょう。



③唾液中の細菌

ぶくぶくうがいを行い、除去します。うがい薬を使用するとより効果的です。

入院や手術の前に歯科医院を受診し、歯垢や歯石などを除去してもらうことが大切です。また正しいブラッシング方法を指導してもらい、入院中もお口の中を清潔に保ちましょう。

入院中、お口の中のことで気になることがあった場合は、口腔ケアチームにご相談ください。

歯科：青木